

悲情城市 (1989)

悲情城市

A CITY OF SADNESS

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 台湾

色彩 Color

時間 159分

初公開日 1990/04/28

公開情報 フランス映画社

【キャッチコピー】

こんなにも美しい愛があった こんなにも激しい死があった かなしみが心を撃つ非情城市 全世界で感動を呼ぶ 現代台湾史壮大な叙事詩！

【解説】

世評は高い作品だが、侯孝賢のフィルモグラフィの中、ただ一つ居心地悪げに鎮座する“大作”であり、魅力的な巻頭（日本から解放の日に長男の息子が誕生）シーンや、T・レオンの聾啞の四男の生活、恋愛の描写のリリシズムに他の部分が追いついていない気がした。様々な解釈のある台湾現代史においても最も激動的な’45年の日本敗戦から’49年の国民党政府の樹立までの四年間を背景に、林家の長老・阿祿（季天祿）の四人の息子たちの生き様をパノラミックに描くが、屋台骨は意外に弱い。長男、文雄は台北の顔役的存在だが、その才覚に欠け、次男は戦争中の徴用で死んだ。三男は解放後、戦後派らしい生き方をしていたがやがて発狂してしまう。四男は郊外の町で写真館を営み、国民党の進攻に抵抗する友人らに心情的に味方をしている……。ヒロイックな人物が誰一人出てこないのはよいが、作品的にもう少し骨太の所があっても良かったと思う。その優しさが侯監督らしいとも言えなくもないが……。

【クレジット】

監督 ホウ・シャオシェン Hou Hsiao-Hsing

脚本 ウー・ニエンツェン Wu Nien Jen

チュー・ティエンウェン Chu Tien-wen

撮影 チェン・ホアイエン

音楽 立川直樹

チャン・ホンイー

出演 トニー・レオン Tony Leung

シン・シューフェン Sin-Shu-Fen

リー・ティエンルー

チェン・ソンヨン Chen Sown-Young

カオ・ジエ Kao Jai